

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174500767		
法人名	株式会社 日本社会事業開発研究所		
事業所名	グループホーム まつの木苑		
所在地	深谷市中田95番地1		
自己評価作成日	平成23年7月20日	評価結果市町村受理日	平成23年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今できることを、利用者の身になって実践します」の理念のもと、まつの木苑で暮らすことになっても、その人が今までやってきたことが継続して出来るよう支援しております。日常生活における、洗濯・掃除・買物などはスタッフのみでは決して行わず、入居者が無理なく一緒に出来る範囲で手伝っていただきながら役割を持って過ごせるよう対応しております。また、毎日の近所への散歩や週1回以上の外出を通じて、まつの木苑だけで生活するのではなく地域で過ごす時間をなるべく増やすよう努力しております。入居者の皆さんが安心して楽しみを持って暮らせ、望んでいることをできるだけ叶えられるよう、寄り添いながら共に考え生活していけるような施設を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスが併設された1ユニットのグループホームで、良い雰囲気でも自然に交流出来ている。理念を皆で考え、その理念の下、日々のケアに取組んでいる。入居者との外出機会を増やし、地域の方と散歩の途中で言葉を交わす事も増え、今では声を掛けられたり、野菜の差入れや協力も得られるようになってきている。ホームでは食事作りや洗濯、掃除、買物等、入居者一人一人の出来る事を職員と一緒に行ってもらい、自分で行う事が生活の楽しみや喜びとなっている。家庭菜園も入居者と一緒に野菜を育て、リビングのテーブルに採りたての野菜が並べてあり、家庭的で明るく自由な雰囲気が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を実践するため、スタッフ合意によるホーム独自の理念「今できることを、利用者の身になって実践します」を掲げ会議・ミーティング時には繰り返し確認しあい実践している。	ホームの理念を皆で作り、実践している。月1回のスタッフ会議や日々のミーティングで確認や振り返りを行い、「今できることを、入居者の身になって実践します」の理念の下、支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美化活動や行事(お祭り等)に積極的に入居者と共に参加し、地域の一員として交流している。また、併設しているデイサービスには地域の皆さんが利用しており毎日交流している。	管理者は外出の機会を増やし、地域住民との交流の機会も増えている。近隣の方の訪問や野菜等の差入れもある。地域の活動や行事にも参加し、交流を楽しんでいる。併設のデイサービス利用者との交流もあり、生活に広がりを与えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のニーズに合わせ貢献できるよう、まつの木苑で何ができるか検討はしているが、現在のところ発信できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、グループホームの内容や事業活動報告、防災体制や外部評価の結果などを報告している。出席者の意見は貴重な意見とし、サービスの向上に努めている。	運営推進会議の開催は1回で、民生委員、包括担当者、家族、入居者、隣組の班長が出席し、ホームの状況や外部評価の結果、事業活動報告等を行い、意見は運営に活かしている。会議の開催回数を増やしていく方向で検討している。	1回の開催の中では出席者からホームについてまず知ろうとする質問が多かった。2回、3回と開催していく中で理解が深まり、ホームへの協力と地域のニーズからホームが果たす役割について検討される事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に出向く際には、入居者も同行してもらい状態を知ってもらう機会にしている。また、状態や状況に変化があった時や、担当者の来苑時にも、実情やケアの取組み等に理解と協力が得られるよう努力している。	管理者はホームの実情や入居者について理解してもらう為、市役所に入居者と一緒に出掛けている。市担当者が状況確認にホームを訪問した際には、実情報告や交流を図る等、良い協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは正しく理解し安全を確保できるときには玄関等施錠をしていないが、普段は施設が交通量の多い道路に面しており施錠している。しかし、外気浴や散歩・外出等を頻回に行い抑圧感のないケアに努めている。	ホームは交通量の多い道路に面している事もあり、安全の為玄関の施錠はしているが、外出機会を多くする等、開放感のある運営に気を配っている。身体拘束をしないケアについては研修も行き、職員は理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に説明するとともに、入浴時や全身状態が観察できるときには、必ず身体のチェックを行い虐待が見過ごされないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活保護を受給している入居者もあり、勉強会にも参加し内容をスタッフ全員で共有し、必要に応じて家族等に情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には十分な説明を行い、疑問点を解消できるよう努めている。また、いつでも質問等に回答できるよう連絡体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族等と関わりを持つるときには意見や要望を聞いている。運営推進会議・行事への参加や協力も呼び掛け、意見や要望を聞ける機会を設け施設運営に反映させている。	家族の面会時や電話で意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議への参加も全入居者に声を掛けた。意見や要望は運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	原則、スタッフ全員参加の会議を定期的開催したり、日々のミーティングを通じてスタッフ個々の意見や提案を活かし、運営にできる限り反映している。	月1回のスタッフ会議やミーティングで意見を吸上げ、業務に関する事やケア方法について意見を出し合い、出された意見は検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	決算や賞与などの際、努力や実績・勤務態度等を考慮し反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設・法人内の研修や勉強会を実施している。また、外部で行われる研修などにも積極的に参加しスキルアップが図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の複数の事業所との連絡会や勉強会に参加しているほか、外部の研修にも参加してもらいネットワークや交流が持てる機会ができるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で、入居者や家族の状態やおかれている環境をできるだけ理解し、安心して利用していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査で、入居者や家族の状態やおかれている環境をできるだけ理解し、安心して利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われることについては、情報の提供を行い必要により関係機関との連絡調整などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とスタッフの相互関係について考え、日々の生活の中で、入居者のできること・やりたいことを知り共に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と過ごす時間を大切にしまつの木苑での入居者の状況を見てもらえる機会が多くもてるよう働きかけ、入居者が快適に生活できるよう協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの関係が途絶えることのないよう、面会は常時歓迎し苑内でゆっくり過ごされよう配慮している。また、身内に会いたい等の要望には一緒に出掛けたり、墓参りや法要参加等の外出支援も行っている。	職員は入居者と馴染みの方との関係が途切れないよう友人の訪問や電話でのやり取り等を支援している。墓参り等も要望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の話しの仲介をするなど、入居者間の関わり合いを大事にしている。共に支える関係が出来るよう、外出時のメンバーや日々の役割など工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談等が受けられるよう、退居後も年賀状や行事などの際にはお知らせし、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、会話や行動、表情や様子から意向を把握している。また、困難な入居者に対しては、生活歴や家族に聞き把握し入居者の思いにそったケアが行えるよう努めている。	入居者の思いを訴えがなくても汲みとれるよう努めている。職員は入居者の身になり、自分のしてほしい事を考え、ケアをしている。何か問題のあった時には家族からも情報を聞き、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査やサマリーなどを通し把握に努めている。また、入居者や家族にも話の中で、あらたまった形ではなく聞くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録や健康状態などサービス提供記録、また、スタッフ間の申し送りを通じて入居者の心身の状態把握に努め、それをスタッフ等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が安心して安全に生活できるよう、計画作成担当者が本人の様子観察やスタッフからの実態報告、家族からの意見や要望を参考に作成している。	ケース会議の中で皆で情報を出し合い、計画作成担当者がプランを作成している。家族からの意見、要望を取入れ、家族にプランについて説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違うときには特に注意し、日々のケース記録に残し、情報の共有や課題解決に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の思いにそったケアができるよう、できる限り柔軟な対応をしている。また、他のグループホームを訪問したり情報を収集し良いところは見習い改善している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として存在できるよう意識し、入居者に聞きながら、公民館活動や地域の行事に参加したり、見学に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診していた医療機関やまつの木苑の協力医をかかりつけ医とし、希望と納得の得られる受診をしている。また、受診に際してはスタッフが同行し関係を築く努力をしている。	協力医療機関のかかりつけが1名で、他の入居者は希望により以前からのかかりつけ医に職員の付き添いで受診している。ホームでは家族、本人の希望を大切に、適切な医療を受けられるよう支援している。歯科受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービス配置の看護師に相談しながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関の相談員や看護師に、面会に行った際身体状態等を聞いたり情報交換し、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、入居者または家族に重度化や終末期の希望を聞き、その時期については、かかりつけ医の判断や指示を仰ぎ、家族に連絡し希望にそえるよう早期に対応している。	入居時に本人、家族の意向を確認し、ホームの対応についても説明している。重度化にともないかかりつけ医の判断や指示を仰ぎ、家族に連絡、相談し、希望に添えるよう早目の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、スタッフ全員が実践力を身につけているとは言えず、その都度看護師により指導を受け、対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域のボランティアも参加する、夜間を含めた防災訓練を定期的に行い、万が一に備えスタッフ・入居者が落ちついて行動できるよう努力している。防災センターでの災害体験も行っている。	年2回の訓練を行った。夜間を想定した訓練も行ない、職員は避難出来る方法を全員が身につけている。地域のボランティア4名も訓練に参加し、スプリンクラーも設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、声掛けや言葉使いに配慮し、さりげない介助や支援をしている。また、様々な場面で誇りやプライバシーを損ねないよう入居者のペースに合わせた対応を心掛けている。	入居者の人格を尊重し、言葉使いや言葉掛けに配慮し、対応している。又、一人一人の生活を大切に、プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話しを聞くことを第一とし、入居者の思いや希望をできる限り叶えられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態を観察すると共に、入居者の生活リズムを崩すことなく無理強いせず利用者のペースで思い思いに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師の訪問があり散髪しているが、希望によっては理美容室に通うことも可能である。また、化粧品なども買物の際、一緒に出掛けて購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と日曜日の献立は入居者の希望を取り入れ、買物から調理、下膳まで入居者とスタッフと一緒にしている。食事の場所や行事食も取り入れ季節感も持てるよう努力している。	昼と夕は宅配業者から弁当をとり、朝食と日曜日は入居者と一緒に食事作りを楽しんでいる。好みも取入れ、買物も入居者と出掛けている。行事食も取入れ、菜園で採れた野菜等も食卓に並べ、家族のような雰囲気での食事の準備をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量についてはその都度記録し、体重測定も定期的実施している。看護師やかかりつけ医と連携し、栄養バランスに気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせた口腔ケアを働きかけている。必要に応じて歯科検診等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用したり、入居者の言動や様子等でその都度声掛けし、トイレでの排泄に向けた支援をしている。	排泄の自立支援に取り組んでいる。排泄パターンをつかみ、1対1でトイレ誘導を行っている。入居時の排泄レベルが保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす散歩などをすすめ、水分摂取量にも注意している。繊維質の多い食材やヨーグルトなども食べていただいているが、必要な方にはかかりつけ医に相談し排泄コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には隔日の入浴であるが、入居者により2～4回の入浴となっている。拒む方には声掛けを工夫したり、別の日に入ってもらう等臨機応変に対応している。変わり湯も実施し入浴が楽しめるよう支援している。	平均週3回午前中に入浴支援を行っている。状態に応じて臨機応変に対応し、長湯の好きな方、ぬるめが好きな方等、好みに応じている。季節により菖蒲湯やゆず湯、リンゴ湯等も行い、冬の外出の少ない時期に変わり湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のペースで休まれている。その日の体調や室温などに配慮し、快適に気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬の服薬状況がわかるよう、お薬手帳等の薬の内容が記載されているものをファイルし、効力や副作用について理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者や家族に生活の仕方や好みの行動について聞き、入居者一人ひとりの能力や嗜好に合わせた役割や楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者のニーズに添った外出を心掛け、個人での散歩や皆でのお出掛け、希望に添った外出・買物などの多様化した外出支援を行っている。家族とも外出できるよう働きかけ、協力を得ながら閉じこもらない支援が出来るよう努めている。	ホームでは散歩やドライブ等の外出を多くしている。入居者の希望も取入れ、出掛けた先で友人に会ったりもする事もある。散歩や買物、洗濯も一緒に行き、近隣の方とも顔なじみになり、声を掛け合い、良い交流が出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべてを見守ることはできないので、希望する入居者には少額のみ手元に置いてもらっている。また、認知症の程度によるが入居者の希望によっては買物に行き支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により、その都度電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が生活する居住スペースであることを大切に、花を飾ったり写真を掲示するなど心地よく過ごせるよう努めている。また、臭いや室温にも気を配りこまめに調整している。	玄関やリビングにドライブで出掛けた写真や入居者が職員と一緒に作った作品等が飾られている。二つのテーブルを囲み季節の花も飾られている。デイサービス利用者とも仲良く話し、居心地よく過ごせるよう職員が気配りしている。正面の窓は広く外の景色がよく見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を置き、思い思いに過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない範囲で入居者の使い慣れた物や、親しみ・馴染みのある物を持ってきていただき、住み慣れた部屋に近づけるよう、入居者・家族にも協力していただいている。	馴染みのある物を持ち込み、落ち着いて過ごせるよう配慮している。仏壇やぬいぐるみ等、思い思いの品が持ち込み、自分らしい部屋づくりをされている。職員はエアコンの調節や環境整備の支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりが、まつの木苑内で自由に活動できるよう手すり等が随所に取り付けられている。また、張り紙や時計・カレンダーなど見やすいところに掲示している。		